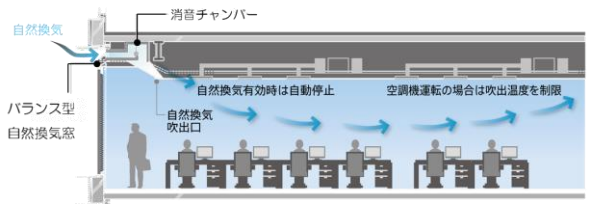
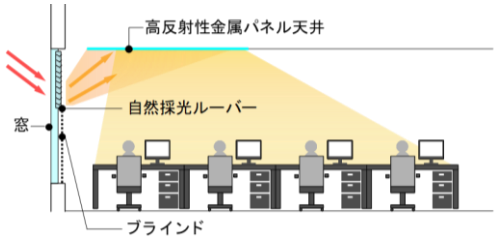
建築物の脱炭素化 ▶ ヒューリック & ヒューリック本社ビル

会社名	ヒューリック株式会社
所在地	東京都中央区日本橋大伝馬町7-3
事業内容	不動産の所有・賃貸・売買 ならびに仲介業務
設立	1957年3月
市場	東証プライム　証券コード3003
資本金	1,116億9百万円
従業員	単体189名
JCR 格付	AA- / 安定的

ソーラーチムニーを利用した温度差による自然換気システム



採光ルーバーを利用した自然採光システム



環境性能認証の取得

［DBJグリーンビルディング］

DBJ Green Building 2016

「環境・社会への配慮がなされた不動産」に関する認証制度（環境,快適性,リスク,コミュニティ・ステークホルダーとの関わり）
【 主管：日本政策投資銀行 （DBJ）】

最高評価 5つ星 を取得

［CASBEE ウェルネスオフィス］

CASBEE ウェルネスオフィス 2020

「建物利用者の健康性、快適性の維持・増進を支援する建物の仕様、性能、取組」の認証制度
【主管：建築省エネ機構（IBEC）】

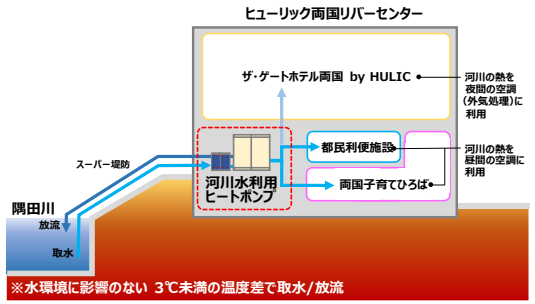
最高評価 Sランク を取得

建築物の脱炭素化 ▶ ZEB，LCAに対する取組み

ZEB化に向けた取組み

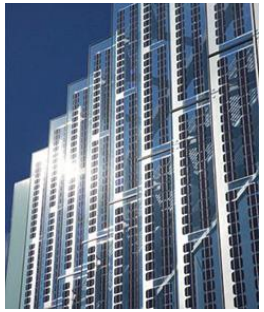
省エネ技術の導入例　「河川水温度差エネルギー利用設備」

夏は外気より温度が低く、冬は暖かい河川水を熱源利用した空調システムを採用。都心の未利用エネルギーを有効活用し、効率的なエネルギー利用によってCO_2排出を削減。



再生可能エネルギーの利用　「自家消費型太陽光発電の導入」

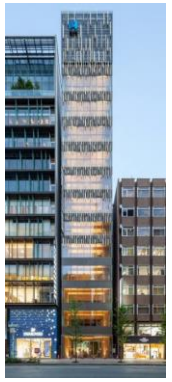
建物の屋上や壁面を利用し、太陽光発電を設置することで再エネ電力の自家消費を実現。建築面積の大きい物流施設では太陽光発電を積極的に導入し、電気料金の削減と電力消費によるCO_2排出削減に貢献。



LCAの取組み

木造建築への取組み 建設時CO２の削減

木材を利用した耐火木造建築の開発を推進し、**建設時におけるCO_2排出量を削減**。銀座に**日本初となるの12階建て耐火木造の商業施設**が完成。
シニア施設の木造化も現在検討中。



高耐震化・長寿命化の実施

自社開発では長期間安全に使用できる**100年建築**の仕様とし、建築基準法を上回る耐震性能を確保。免震構造や制振構造を積極的に採用。**高耐震化・長寿命化**によりスクラップ&ビルドに伴う**廃棄物、ライフサイクルCO_2を削減。**
2020年にはPPP事業として既存校舎の大半を保存・再生させた立誠ガーデンヒューリックが完成。

建築物の脱炭素化 ▶ オフサイトZEBからRE100,全保有物件100%再エネ化

2024年RE100の達成、2030年保有建物100%再エネ化に向けた取組み

2014 広野町(FIT太陽光)発電開始
▶ヒューリック本社ビルでのオフサイトZEBの達成

2020~ 非FIT太陽光発電の開発・稼働を開始
ヒューリックグループの入居ビルへ再エネ電力供給開始

2024 「RE100」の達成
▶自社グループにおける事業活動で使用する電力の100%再エネ化

2030 全保有物件の使用電力100%再エネ化達成
▶サプライチェーンへの環境価値提供を実現

ROADMAP

再生可能エネルギーの発電設備の開発

当社の事業運営と全保有建物の使用電力を、自社で開発した再エネ設備から供給して**2030年までに100%再エネ化**を目指す。非FIT太陽光発電に約660億円を投資予定。

▶31MW(32か所）の非FIT太陽光発電の開発が完了

電力供給の強靭化を図るべく、小水力発電(FIT)を新規開発を開始。

▶2021年5月 川場谷小水力発電所(200kW）が完成

温室効果ガス削減目標にSBTの認定取得

SCIENCE BASED TARGETS
DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

温室効果ガス削減目標の中期目標（年限2030年）にSBTiよりSBTの認定を取得。パリ協定に合致した最も野心的な水準である1.5℃ 目標であり、Scope 3ついて、サプライチェーン削減目標の基準に即したベストプラクティスに準じていると認定。

TCFD提言への賛同、情報開示を実施

TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース）提言に基づき気候変動に関する「2℃シナリオ」と「現行推移シナリオ」を用いて当社の事業戦略リジリエンスを検討、情報を開示。

TCFD TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES